

# OCC メディカル・カフェ ニュースレター 『賢明な寛容:the wise patience』 第26号

2025年2月 発行『お茶の水メディカル・カフェ in OCC』

ニュースレター第26号をお届けいたします。今年最初の号は樋野先生とスタッフの森が担当します。

柔軟性のある人格 ~『小さなことに、大きな愛をこめる』~

樋野興夫 (順天堂大学名誉教授、新渡戸稻造記念センター長、恵泉女子学園理事長)



2025年2月15日は、2012年からスタートされた『お茶の水メディカル・カフェ in OCC』(13:00~)に出席した。個人面談の機会も与えられた。終了後、スタッフと有意義な貴重な時を持った。

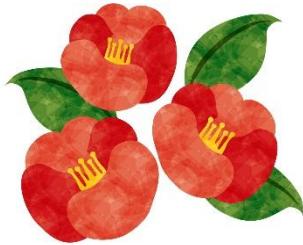
想えば、東日本大震災の2011年に創設準備がなされ、2012年に当時OCC副理事長であった今は亡き榊原寛(1941-2020; 79歳で2020年12月24日ご逝去された)先生が『お茶の水(OCC)メディカル・カフェ』を始められた。筆者は、『順天堂大学医学部 病理・腫瘍学教授』時代の2012年5月26日に第1回『お茶の水メディカル・カフェ』に出席したものである。『継続の大切さ』を実感する日々である。

2月16日午前wifeとKBFに出席した。日本、韓国、中国、アジア、インド、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカの人も参加されていた。【1919年パリ講和会議が開催されている頃、『スペインかぜ』がフランスでも猛威をふるつていて、パンデミック(世界流行)で、感染者6億人、死者4,000万~5,000万人にも達したと推定されている】と、以前に聞いたものである。そのとき、新渡戸稻造(1862-1933)はパリにいて、その後、国際連盟事務次長に就任している。ドマス・カーライル(Thomas Carlyle 1795-1881)の影響を受けた新渡戸稻造は、『common sense(社会常識)を備えもつた柔軟性のある人格者』と謳われている。

午後、落合川を散策した。川に浮かぶカモ、白鳥、泳ぐ鯉を眺めた。心が慰められた。また、川辺りで、犬と散歩する人々、走行の運動する人々、公園で、バスケットを楽しむ家族を見て、心が温まった。

(次ページへ続く)

【『30m後ろから誰かを見ている人物になる』&『小さなことに、大きな愛をこめる：アルプスの少女ハイジ ヨハンナ・シュピリ(1827-1901)』】は、まさに、『お茶の水メディカル・カフェ in OCC』の心得であろう！



目白のメジロ  
撮影：森尚子



### 春はここまで

三寒四温と共に、春の訪れを感じる今日この頃。目白駅周辺も、梅や早咲きの桜、沈丁花の花が咲き、メジロや野バトをよく見かけるようになりました。元気な鳴き声は、春を喜んでいるようです。

先日、初めてがん哲学外来カフェに参加された方が、「がん哲学外来はがんの話をする場所だと思っていました。そうじゃないんですね。病気のことはもちろんですが、子育てや親の介護、社会情勢など、皆さんいろいろ話されていて、なんでも話せる場所なんですね。」と言われた。

「そうなんですよ。なんでも話せる場所なんですよ。話さなくても座っているだけでもいいんです。それが、がん+哲学+外来+カフェなんです。」と、話すと「良かったです。きっかけは病気でも、それから生まれる悩みや悲しみ、気付きを皆さんと共有できて本当に良かったです。」と笑顔で話された。

がん哲学外来カフェを一言で説明するのは難しいです。まずはOCC カフェに参加し、参加者の皆様とテーブルを囲んでお話することで、カフェの様子がわかると思います。

毎月1回開催します。

スタッフ一同、皆様のご参加を心よりお待ちしています。

がん哲学外来・お茶の水メディカルカフェ in OCC スタッフ  
目白がん哲学外来カフェ代表 森 尚子